有磨学区防災（避難）計画

有磨学区防災・避難手引き
―いざというとき、どうするか―



有磨学区自主防災会
有磨学区自治会連合会
有磨学区まちづくり推進委員会

２０２６年（令８年）３月作成

目次

内容

１　基本的な考え方 1
２　活動方針 2
（１）平常時の対応 2
（２）災害時の対応 2
３　有磨学区の特性 3
（１）有磨学区の概要 3
（２）有磨学区の人口 4
４　有磨学区の過去の災害 5
（１）有磨学区の過去の災害（風水害） 5
５　有磨学区に予想される災害（風水害） 6
（１）有磨学区に予想される水害 6
６　福山市全体に予想される災害（南海トラフ地震編） 7
（１）南海トラフ地震による被害想定の概要（福山市全体） 7
（２）南海トラフ地震による津波の被害（福山市全体） 8
７　有磨学区で想定される地震被害 9
（１）想定される地震（南海トラフ地震） 9
（２）想定される地震（長者ヶ原断層ー芳井断層） 10
（３）地震による液状化現象 11
８　避難行動の基本方針（風水害編） 12
（１）風水害の避難先 12
（２）風水害の避難経路 12
（３）各地域の避難経路 12
（４）各地域の避難経路図 12
９　避難行動の基本方針（地震編） 14
（１）地震が発生したら 14
（２）有磨学区における津波の被害想定 14
（３）各地域の避難経路と避難場所 14
１０　避難行動の考え（具体的に気を付けること） 15
１１　避難行動要支援者（災害時要援護者）等への支援 15
１２　有磨地域の防災対策 17
（１）防災体制 17
（２）情報伝達の流れ 17
（３）活動体制（班編成） 18

（４）避難場所・緊急時の連絡先 19
（５）防災資器材等 20
（６）自主防災訓練の実施 21
（７）避難行動要支援者（災害時要援護者）等への支援体制の整備 21

（資料編）防災に役立つ情報

【資料１】チェックリスト 24
１　地域の危険な場所チェックリスト 24
２　自主防災活動（共助）チェックリスト 25
３　わが家の防災力（自助）チェックリスト 26
【資料２】家庭での防災・減災対策 27
１　避難経路の確認 27
２　家族や友人との連絡方法の確認 27
３　非常時持ち出し品の準備 28
４　家の中や周りの点検・補強 28
５　情報の収集 29
【資料３】いざというときのアイデア
・水をろ過する方法、火の起こしかた、あかりの作り方
・アイデア調理
・ビニール袋を利用したカッパ（簡易防寒着）の作り方
・ビニール袋と新聞紙で作る 簡易トイレ【避難生活】
・レジ袋とタオルで作る簡易おむつ 【避難生活】
・簡易ランタン

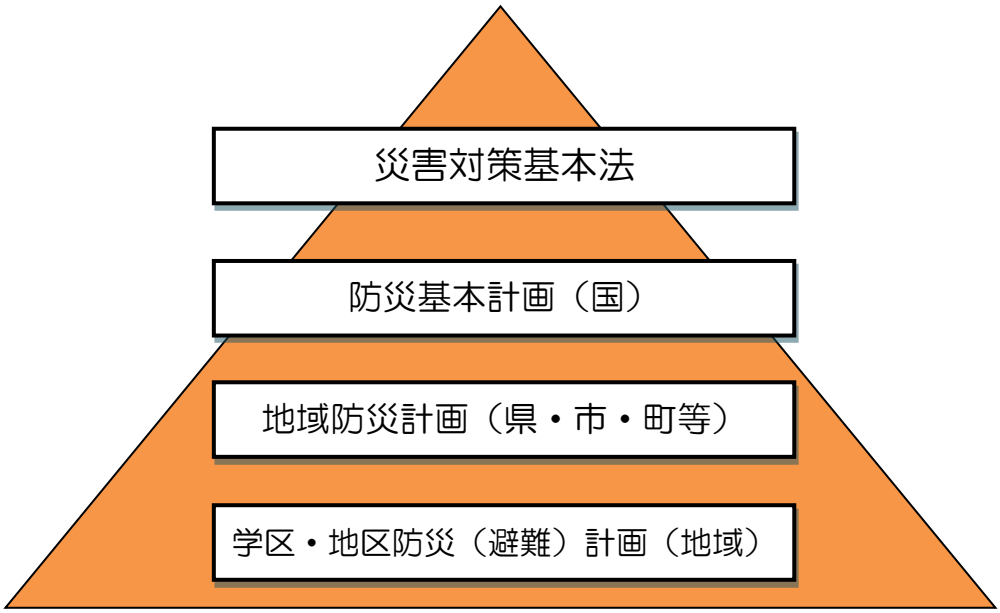
1　基本的な考え方

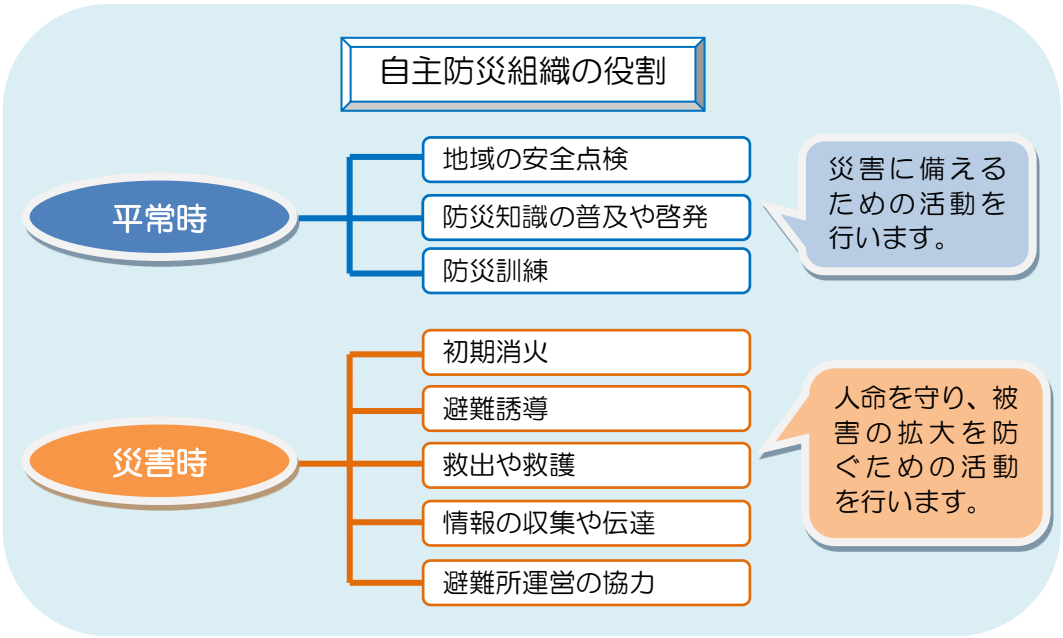
災害が発生した直後は、交通網の寸断、火災の同時多発などにより、消防や警察などの防災機関が十分に対応できない可能性があります。そんなとき、力を発揮するのが「地域ぐるみの協力体制」です。

実際に、阪神・淡路大震災のときには、地域住民が自発的に救出・救助活動を行い、多くの人命を救うとともに、その後の復興にも大きな力を発揮しました。

また、東日本大震災のときのように避難所生活が長引く場合にも、地域住民が助け合って、さまざまな困難を乗り越えなければなりません。

自分たちの地域では、「自分たちの地域は自分たちで守る」という心構えで、地域のみんなで助け合いながら、災害に強いまちづくりを進めます。





２　活動方針

（１）平常時の対応

いざというときに地域の力が発揮できるよう、地域のみんなで協力して防災活動に取り組みます。

①　防災知識の普及・啓発

防災対策では、地域住民の一人ひとりが防災に関心を持ち、準備することが重要です。地域住民への防災知識の普及や啓発活動を行います。

②　地域の安全点検

防災の基本は、自分たちの住むまちを知ることです。地域の危険な場所や防災上問題のある場所などを確認し、改善のための働きかけなどを行います。

③　防災資器材の整備

防災資器材は、災害発生時に活躍します。有磨交流館駐車場に防災倉庫に土のう袋、スコップ、ブルーシート等の防災資器材を備蓄していますので、日頃の点検や使い方を確認します。

④　防災訓練

防災訓練は、いざというとき、あわてず、的確に対応するための欠かせない活動です。地域住民に積極的な参加を呼びかけて、訓練を行います。

（２）災害時の対応

災害時は、負傷者の発生や火災など様々な事態が発生する可能性があります。公共機関とも連携しながら、みんなで力を合わせて活動します。

①　情報の収集・伝達

公共機関などから正しい情報を収集し、地域住民に伝達します。また、地域の被災状況や火災発生状況などを取りまとめ、福山市北部地域振興課へ報告します。

②　救出・救助活動

自分自身がケガをしないよう注意しながら、みんなで協力して負傷者や家屋の下敷きになった人の救出・救助活動を行います。

③　初期消火活動

消防車が到着するまでの間、火災の延焼拡大を防ぐための初期消火活動を行います。

④　医療救護活動

医師の手当てが受けられるまでの間、負傷者の応急手当をして、救護所へ搬送します。

⑤　避難誘導

地域住民を安全な緊急避難場所などへ誘導します。

⑥　給食・給水活動

地域で必要な物資を把握し、公共機関とも連携しながら、必要に応じて炊き出しなどの給食・給水活動を行います。

３　有磨学区の特性

（１）有磨学区の概要

有磨学区は、福山市中心部から北西方向に位置し、学区のほぼ中心にある有磨小学校は、JR 福山駅から直線距離で約１３km にあります。

南北に約 6km、東西に約 5km のエリアであり、東西に有地川が流れ、主な支流に堀町川、久田谷川があります。学区内には、福山市立動物園および富谷グランドや富谷ドームランドがあります。

地域住民の多くが、過去に大地震及び浸水といった自然災害により、人命が失なわれたり、住宅が被災した経験がないとして防災に対する意識が低く、無関心な傾向にあります。

しかし、学区の南、大谷山には江戸時代につくられた砂留が現在もその形を保っています。砂留があるのは、以前にその地で土砂流出災害があったということであり、有地川流域付近には土砂災害警戒区域が含まれる地域があることから近年大きな土石流や土砂崩れの発生がないからといって安心はできません。土砂災害に注意が必要です。

学区内の河川には“いで”、“いぜ”と呼ばれる農業用固定堰があり、角落しといわれる切欠きに板を設置して水位を調整しています。この堰の近くでは大抵護岸が低くなっているため川が増水する前に堰の板を上げて、水の流れをスムーズにしておくことが浸水被害を防ぐことに有効です。日ごろから堰の管理について農業者と話し合っておくことが必要ですし、堰付近以外にも川の堤防高よりも低い土地にある住宅・家屋は川の増水時には危険なため、注意が必要です。

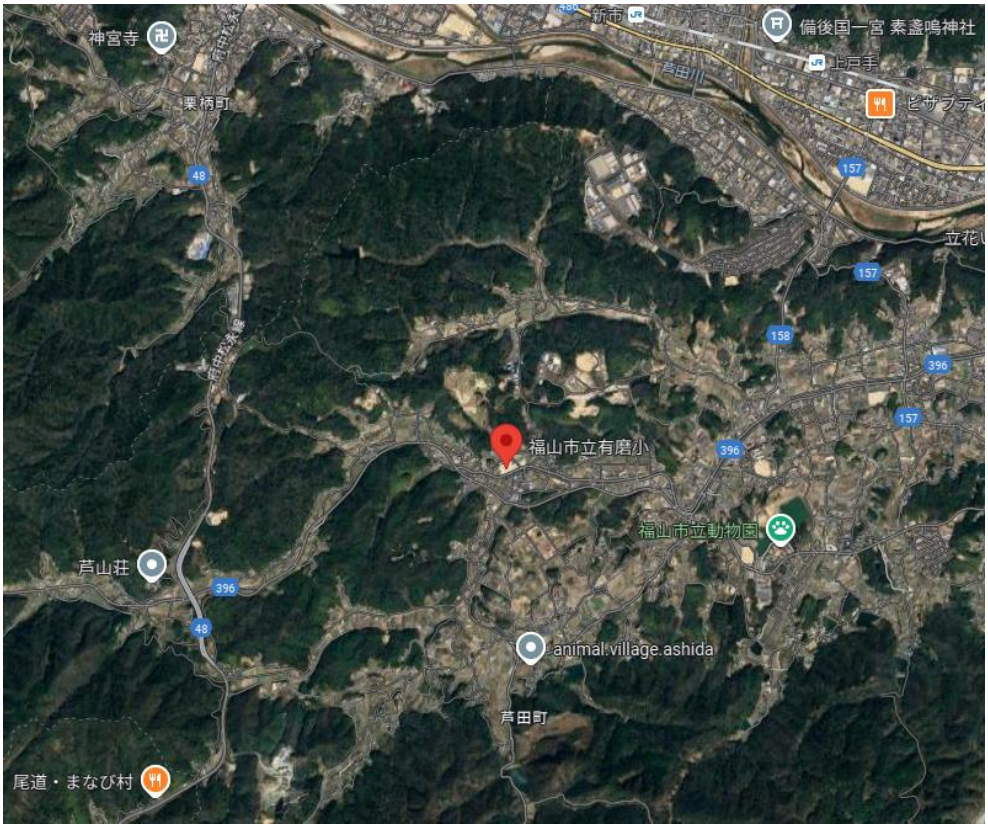
また、学区内には福山市農林整備課 HP によると、決壊した場合の浸水区域に家屋や公共施設が存在し、人的被害を与えるおそれのある“防災重点ため池”が柞磨地域に 15、上有地地域に 44、下有地地域に 31 の合計 90 箇所あります。これらのため池が満水状態の時に地震あるいは豪雨によって堤防が破壊すると一瞬にして大量の水が下流に押し寄せることとなります。このため、必要以上にため池に水を貯めないで堤防及び下流域の安全と、降雨があった際に水を貯める洪水調整機能が発揮できる低水位管理に努めることが重要です。

さらに有磨学区は津波の影響はありませんが、地震に対する備えをしておくことも防災のためには重要です。

この他にも竜巻など突風・暴風による家屋及び電柱の倒壊といった自然災害も考えられるほか山火事発生のおそれもあります。

土砂、浸水、ため池、地震それぞれのハザードマップをよく見て自分が住んでいる場所にはどういった自然災害のおそれがあるかを確認して万一の場合の避難場所・避難経路を知っておくことが重要です。

有磨学区の地図



（2）有磨学区の人口

有磨学区の人口は、約 2,300 人、世帯数は約 1,100 世帯となっています。（2025 年 8 月 31 日現在）。このうち 14 歳以下の子どもの人口比率は 6.9%、65 歳以上の人口比率は 47.2%となっており、高齢者の比重が高い地域となっています。

有磨学区の人口等　（2025 年 8 月時点）

住所	世帯数	人口	男	女	14 歳以下人口	14 歳以下(%)	65 歳以上人口	65 歳以上(%)
芦田町大字上有地	469	1,013	481	532	68	6.7	461	45.5
芦田町大字下有地	461	1,008	481	527	80	7.9	438	43.5
芦田町大字柞磨	173	292	129	163	12	4.1	192	65.8
有磨学区合計	1,103	2,313	1,091	1,222	160	6.9	1,091	47.2
福山市合計	**218,043**	**452,545**	**221,015**	**231,530**	**55,082**	**12.2**	**134,074**	**29.6**

４　有磨学区の過去の災害

（１）有磨学区の過去の災害（風水害）

有磨学区における近年の災害としては、平成３０年７月豪雨災害があります。梅雨前線による豪雨により、福山市の広い範囲において浸水が発生しました。有地川が増水したため、避難の必要性がある人がいました。また、府中松永線及び柞磨駅家線といった県道が土砂崩れのため通行に支障をきたす箇所が発生したほか住宅等の裏山がくずれ、建物が一部崩壊するなどの被害が発生しました。



芦田町中村道路陥没

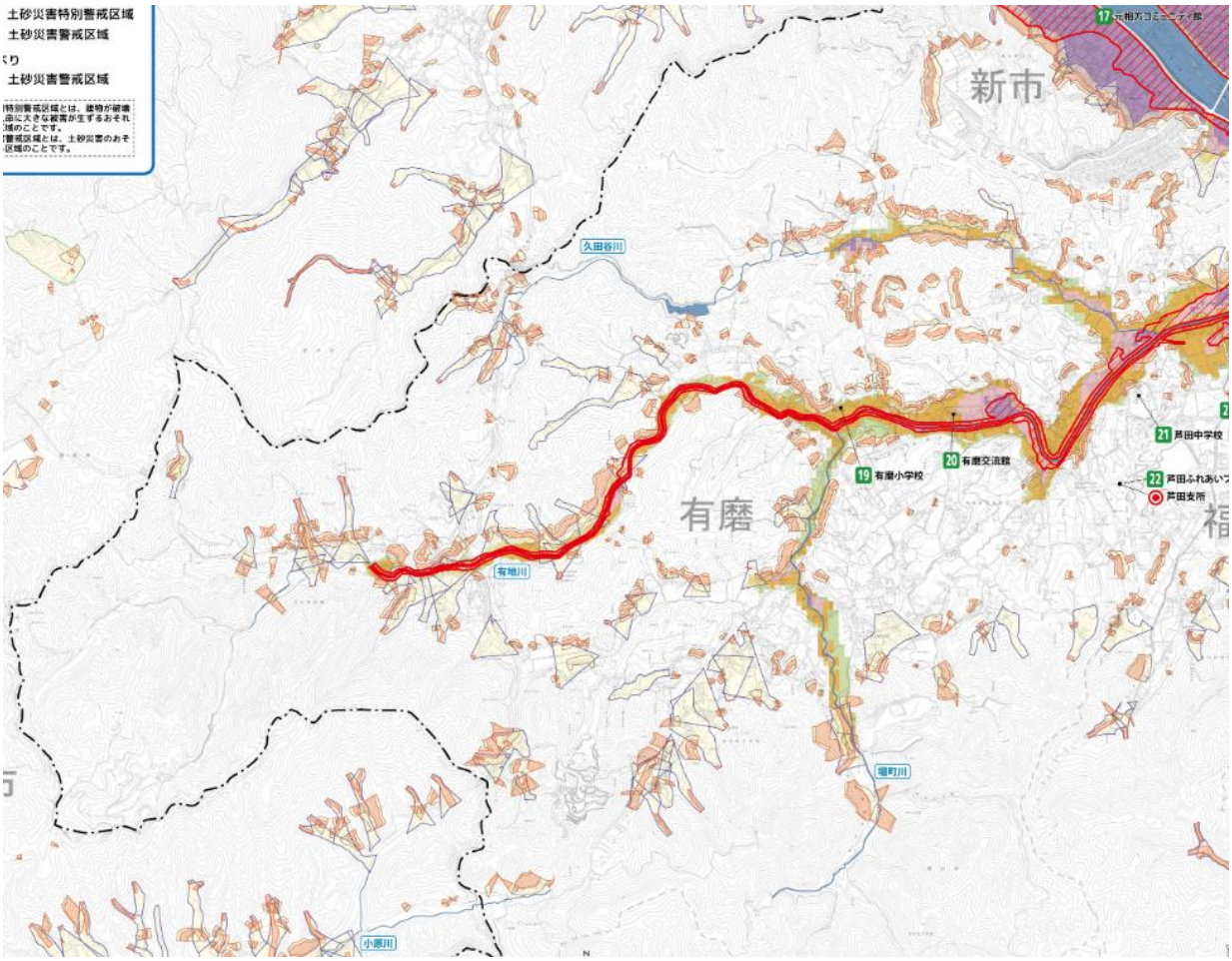


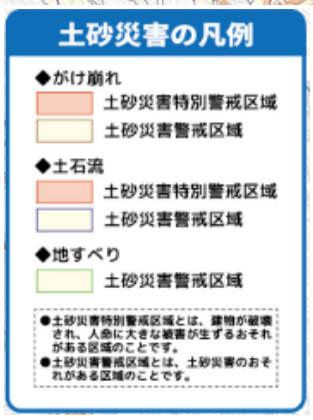
芦田町下本郷田園陥没

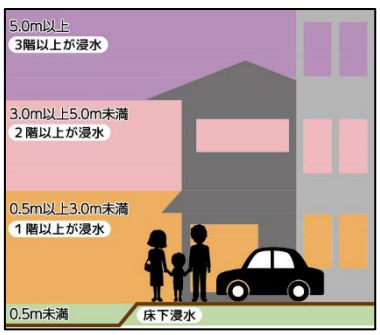
５　有磨学区に予想される災害（風水害）

（１）有磨学区に予想される水害

有磨学区は有地川及び支流の堀町川及び久田谷川に沿った低地に浸水想定区域が分布し最大で５m以上の浸水が上・下本郷及び下東之面町内会の地区で想定されています。また、一部の地域には、土砂災害特別警戒区域（レッドゾーン）及び土砂災害警戒区域（イエローゾーン）があり、がけ崩れの危険もあります。







（福山市水害ハザードマップより）

６　福山市全体に予想される災害（南海トラフ地震編）

南海トラフ地震は、今後 30 年以内に 80%の確率で発生すると言われています。最大クラスの地震が発生した場合、有磨学区では最大震度６弱となっています。有磨学区は海岸線と接することはなく、津波が遡上する河川からも離れているため津波による浸水はありませんが、福山市全体では大きな被害が想定されています。

万一、自宅以外の津波の発生が予測される場所にいるときに地震が発生した場合には速やかに安全な場所に避難をしてください。

これらの被害想定の詳細を以下に示します。

（１）南海トラフ地震による被害想定の概要（福山市全体）

※福山市防災計画より

① 震度（面積割合） ６強（2.4%）、６弱（32.8%）、５強（63.6%）、５弱（1.1%）

② 最高津波水位　　３．３m（津波の高さ １．２m）

③ 被害想定

想定項目		県全体	福山市
建物被害	全壊棟数	69，561 棟	16，528 棟
	半壊棟数	200，572 棟	52，004 棟
人的被害	死者数	14，759 人	6，221 人
	負傷者数	22，220 人	6，529 人
ライフライン	上水道（断水人口）	1，069，382 人	421，248 人
	下水道（支障人口）	779，794 人	159，750 人
	電気（停電軒数）	119，836 軒	17，118 軒
生活支障	避難所避難者数	591，506 人	90，726 人

④ 被害想定の条件設定

ア　就寝中で家屋倒壊や津波からの逃げ遅れにより被害が最大となる「冬 深夜」に地震が発生

イ　年間で最も潮位が高いときに津波が発生

ウ　震度６強以上の範囲では２分の１、震度６弱の範囲では３分の１の割合で構造物（護岸、堤防、防波堤、水門等）が損壊

エ　津波に対する早期避難率が低い場合を設定

- すぐに避難する者 ２０%
- 避難するがすぐには避難しない者 ５０%
- すぐに避難せず津波が迫ってから避難する者又は避難しない者 ３０%

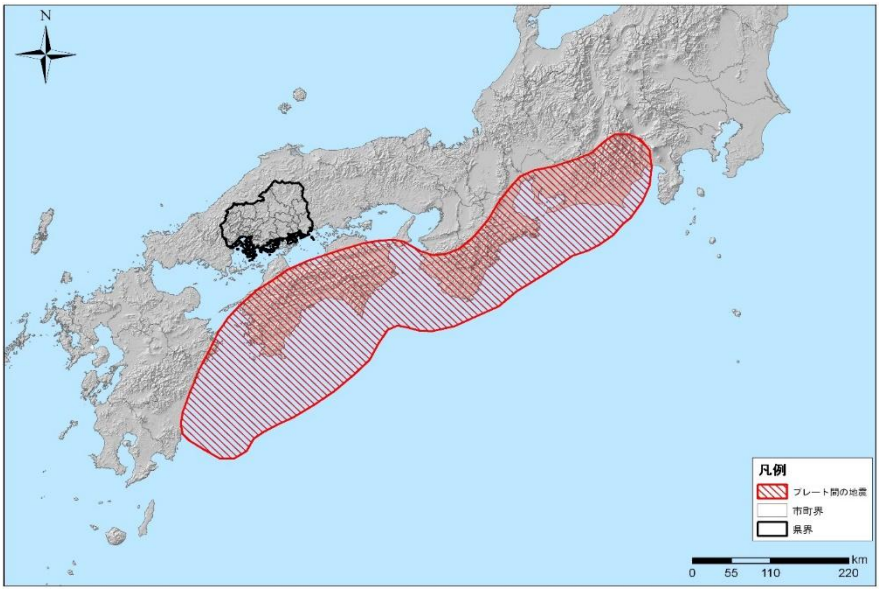


図　想定地震位置図（南海トラフ巨大地震）

内閣府（2012）：南海トラフの巨大地震モデル検討会資料

浸水面積（最大の場合）　（単位：ha）

	浸 水 面 積（浸水深別）				
	1㎝以上	30㎝以上	1m以上	2m以上	5m以上
福山市	3，355	3，037	2，326	1，438	2
県全体	12，847	10，987	6，770	3，364	8

※　河川・砂浜部分を除いた陸域部の浸水面積。

※　四捨五入の関係で合計と面積が合わないことがある。

（2）南海トラフ地震による津波の被害（福山市全体）

南海トラフ巨大地震による「最高津波水位」、「最大波到達時間」及び「津波影響開始時間」南海トラフ巨大地震による市町ごとの最高津波水位等

	最高津波水位＊1		最大波到達時間(分)	津波影響開始時間※2 (分)
		うち津波の高さ(m)		
福山市	3.3	1.2	270	13

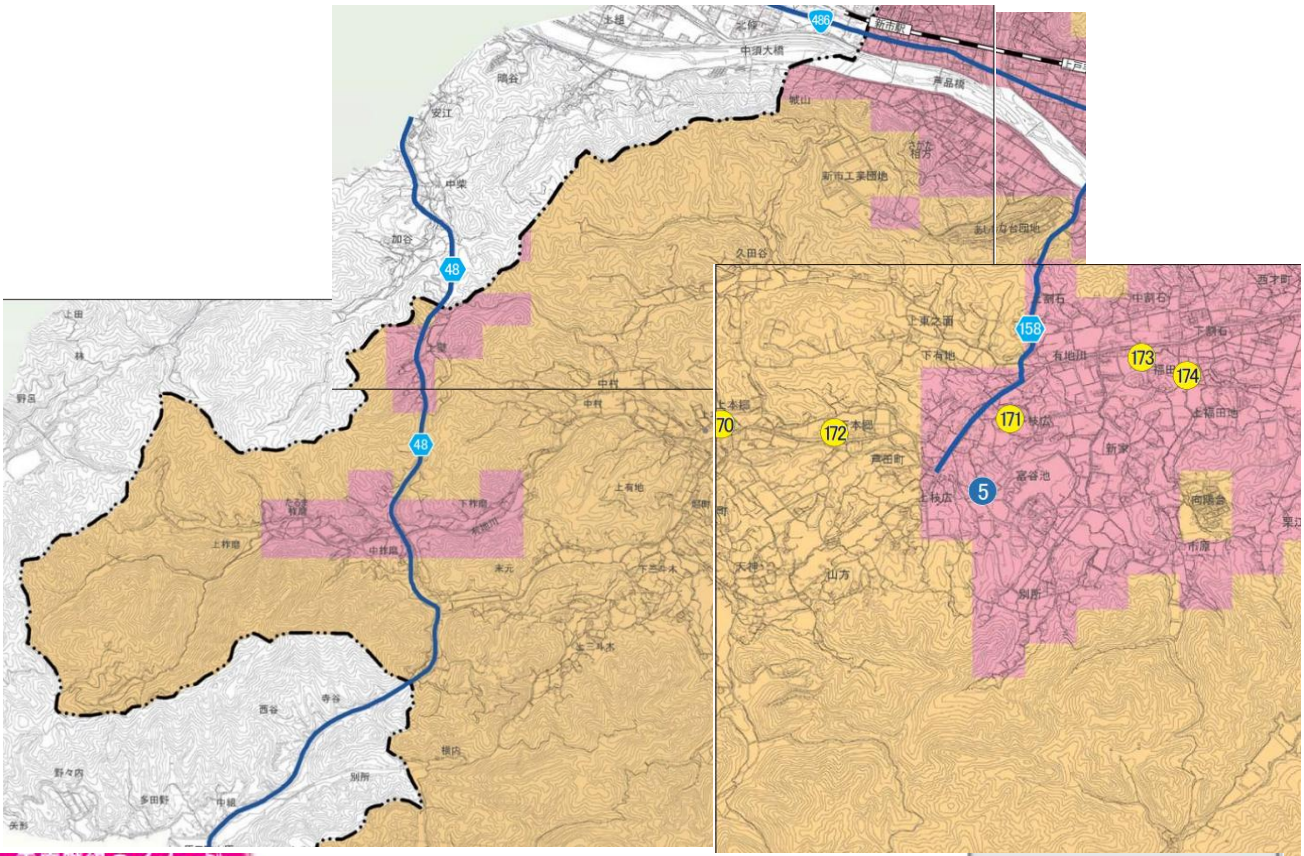
※1　「最高津波水位」は、海岸線における最高の津波水位を標高で表示

※2　「津波影響開始時間」は、海域を伝播してきた津波により、おおむね海岸線において、地震発生後に初期潮位から±20ｃｍの変化が生じるまでの時間

7　有磨学区で想定される地震被害

（1）想定される地震（南海トラフ地震）

南海トラフ地震が発生した場合、有磨学区では最大震度６弱が想定されているエリアがあり、その他でも最大深度５強が想定されています。また、液状化が発生する可能性が低いか、可能性のある箇所が山地を除いた居住地域のほとんどとなっています。このため、建物の倒壊、道路の段差、ため池堤防の決壊などが生じ、避難に時間を要する可能性があります。



震度階級のイメージ

震度階級		震度7	震度6強	震度6弱	震度5強	震度5弱	震度4
人の体感・行動		立っていることができず、はわないと動くことができない。揺れにほんろうされ、飛ばされることもある。	立っていることが困難になる。	大半の人が、歩くことが難しいなど、行動に支障を感じる。	大半の人が、恐怖を覚え、物につかまりたいと感じる。	ほとんどの人が、揺れを感じ、驚く。	
屋内の状況		固定していない家具のほとんどが倒れ、飛ぶこともある。	固定していない家具は、倒れるものが多くなる。	固定していない家具の大半が移動し、倒れるものがある。	テレビや固定していない家具が倒れることがある。	未固定の家具が移動し、不安定なものは倒れることがある。	座りの悪い置物が倒れることがある。
屋外の状況		壁のタイルや窓ガラスが破損、落下する建築物が多くなる。	補強されていないブロック塀のほとんどが崩れる。	壁のタイルや窓ガラスが破損、落下することがある。	補強されていないブロック塀が崩れることがある。	まれに窓ガラスが割れる。道路に被害が生じることがある。	電線が大きく揺れ、運転中に揺れに気付く人がいる。
木造建築物（住宅）の状況	耐震性が低い	傾くもの、倒れるものがさらに多くなる。	壁に大きなひび割れが入るものや、傾くもの、倒れるものが多くなる。	壁に大きなひび割れが入り、瓦が落下し、全体が傾くことがある。倒れるものもある。	壁にひび割れがみられることがある。	壁に軽微なひび割れがみられることがある。	－
	耐震性が高い	壁のひび割れが多くなる。まれに傾くものがある。	壁にひび割れがみられることがある。	壁に軽微なひび割れがみられることがある。	－	－	－
鉄筋コンクリート造建築物の状況	耐震性が低い	壁、はり、柱などに斜めやX状のひび割れが多くなる。１階又は中間階の柱が崩れ、倒れるものが多くなる。	壁、はり、柱などに斜めやX状のひび割れがみられることがある。１階又は中間階の柱が崩れ、倒れるものがある。	壁、はり、柱などにひび割れが多くなる。	壁、はり、柱などにひび割れが入ることがある。	－	－
	耐震性が高い	壁、はり、柱などにひび割れがさらに多くなる。１階又は中間階が変形し、まれに傾くものがある。	壁、はり、柱などにひび割れが多くなる。	壁、はり、柱などにひび割れが入ることがある。	－	－	－

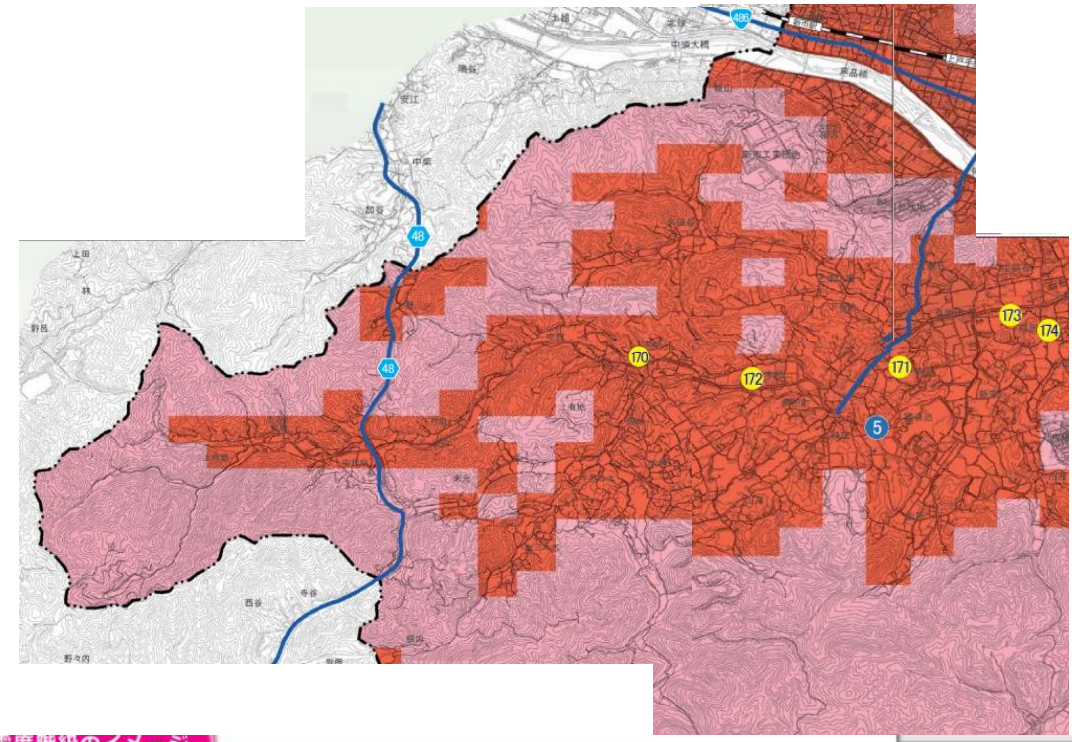
注）震度はそれぞれの地震で想定される最大の震度を表示しています。

（福山市揺れやすさマップ（南海トラフ巨大地震）より）

（２）想定される地震（長者ヶ原断層ー芳井断層）

本郷町付近から長者ヶ原をとおり芦田川右岸の山守橋付近まで及び福山平成大学北側付近から北東方向に約３７ｋｍが断層と想定されています。

長者ヶ原断層ー芳井断層地震が発生した場合、有磨学区では南海トラフ地震以上の揺れとなる最大震度６強が想定されており、南海トラフ地震同様に、居住地域において液状化の可能性もあります。このため、建物の倒壊、道路の段差、ため池堤防の決壊などが生じ、避難に時間を要する可能性があります。



震度階級のイメージ

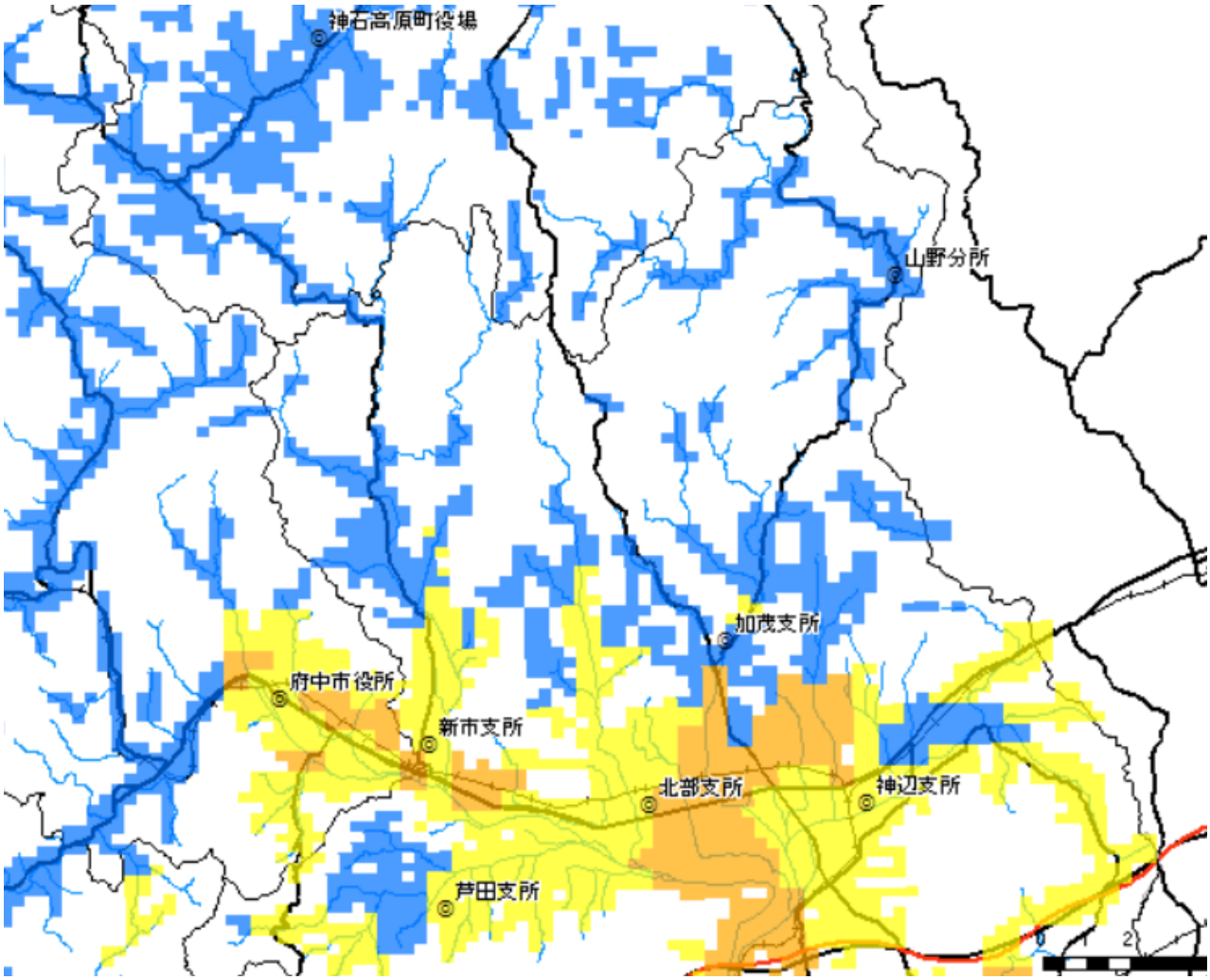
震度階級		震度7	震度6強	震度6弱	震度5強	震度5弱	震度4
人の体感・行動		立っていることができず、はわないと動くことができない。揺れにほんろうされ、飛ばされることもある。		立っていることが困難になる。	大半の人が、歩くことが難しいなど、行動に支障を感じる。	大半の人が、恐怖を覚え、物につかまりたいと感じる。	ほとんどの人が、揺れを感じ、驚く。
屋内の状況		固定していない家具のほとんどが倒れ、飛ぶこともある。	固定していない家具は、倒れるものが多くなる。	固定していない家具の大半が移動し、倒れるものがある。	テレビや固定していない家具が倒れることがある。	未固定の家具が移動し、不安定なものは倒れることがある。	座りの悪い置物が倒れることがある。
屋外の状況		壁のタイルや窓ガラスが破損、落下する建築物が多くなる。	補強されていないブロック塀のほとんどが崩れる。	壁のタイルや窓ガラスが破損、落下することがある。	補強されていないブロック塀が崩れることがある。	まれに窓ガラスが割れる。道路に被害が生じることがある。	電線が大きく揺れ、運転中に揺れに気付く人がいる。
木造建築物（住宅）の状況	耐震性が低い	傾くもの、倒れるものがさらに多くなる。	壁に大きなひび割れが入るものや、傾くもの、倒れるものが多くなる。	壁に大きなひび割れが入り、瓦が落下し、全体が傾くことがある。倒れるものもある。	壁にひび割れがみられることがある。	壁に軽微なひび割れがみられることがある。	－
	耐震性が高い	壁のひび割れが多くなる。まれに傾くものがある。	壁にひび割れがみられることがある。	壁に軽微なひび割れがみられることがある。	－	－	－
鉄筋コンクリート造建築物の状況	耐震性が低い	壁、はり、柱などに斜めやX状のひび割れが多くなる。１階又は中間階の柱が崩れ、倒れるものが多くなる。	壁、はり、柱などに斜めやX状のひび割れがみられることがある。１階又は中間階の柱が崩れ、倒れるものがある。	壁、はり、柱などにひび割れが多くなる。	壁、はり、柱などにひび割れが入ることがある。	－	－
	耐震性が高い	壁、はり、柱などにひび割れがさらに多くなる。１階又は中間階が変形し、まれに傾くものがある。	壁、はり、柱などにひび割れが多くなる。	壁、はり、柱などにひび割れが入ることがある。	－	－	－

注）震度はそれぞれの地震で想定される最大の震度を表示しています。

（福山市揺れやすさマップ（長者ヶ原断層ー芳井断層地震）より）

（３）地震による液状化現象

有磨学区では、液状化により、道路に段差が生ずると避難に時間がかかり、住宅への深刻な被害が発生します。



（福山市 HP より（広島県地震被害想定））

凡例

（液状化指数 PL）

30<PL	…極めて高い
15<PL≦30	…かなり高い
5<PL≦15	…高い
0<PL≦5	…低い
PL=0	

８　避難行動の基本方針（風水害編）

（１）風水害の避難先

風水害は、最新の気象情報や避難情報の発令等について、積極的に情報収集することが重要です。また、避難情報が発令されていない場合においても、危険性を感じた場合には、各自の判断で早めに避難を行うことも重要となります。

避難先・避難経路については、大雨等による道路の通行止めや冠水・土砂崩れの可能性及びため池堤防の決壊を考慮し、複数の選択肢を設定します。

■風水害時の有磨学区内及び近隣の緊急避難場所

	緊急避難場所	土砂	洪水
1	芦田中学校 **基幹緊急避難場所**	○　体育館	○　体育館
2	有磨小学校	○　体育館	○　校舎（２階以上）
3	芦田ふれあいプラザ	○　施設	○　施設
4	有磨交流館	○　施設	

※**基幹緊急避難場所**・・・風水害時、各学区で最初に開設する緊急避難場所
※**緊 急 避 難 場 所**・・・切迫した災害の危険から命を守るために避難する場所



避難場所

■災害から命を守るために避難する場所



避　難　所

■災害によって被災した住民が生活する場所

避難場所と避難所の違いに注意しましょう！

（２）風水害の避難経路

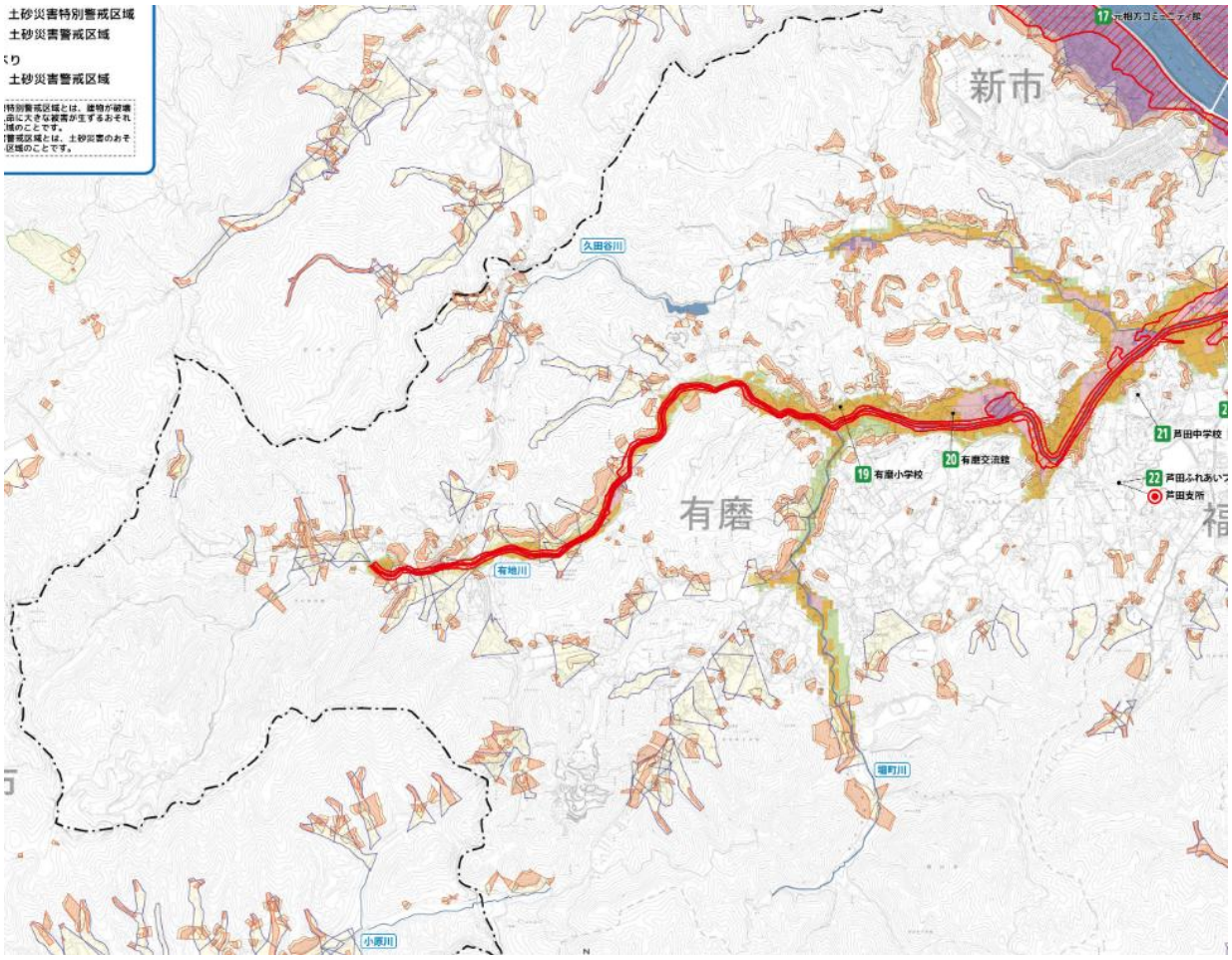
基幹緊急避難場所の芦田中学校へは、河川・水路を避けて避難する。

（３）各地域の避難経路

有磨学区の風水害時の基幹緊急避難場所は「芦田中学校」です。

（４）各地域の避難経路図（町内会ごとに作成）

※２０２０年度作成されたものを資料として添付していますので参考にしてください。必要に応じて見直しを行ってください。


土砂災害特別警戒区域
土砂災害警戒区域
土砂災害警戒区域
新市
久田谷川
有磨
有地川
堀町川
小原川
19 有磨小学校
20 有磨交流館
21 芦田中学校
22 芦田ふれあいつ
芦田支所

９　避難行動の基本方針（地震編）

（１）地震が発生したら

① まずは落下物等から、頭を守るなど自分の身の安全を守りましょう。

② その後、あわてず火の始末

③ 窓やドアを開け、出口の確保（避難経路の確保）を行い

④ 足元、頭上とともに家屋・電柱・ブロック塀など建造物の倒壊などに注意しながら速やかに屋外に出ましょう。

⑤ 家族の安全確認ができたら、隣近所の方々の安全確認をしましょう。



（効果的な防災訓練と防災啓発提唱会議より）

■地震発生時の有磨学区内の緊急避難場所

	緊急避難場所
1	芦田中学校
2	有磨小学校

（２）有磨学区における津波の被害想定

南海トラフ地震が発生した場合、有磨学区では津波による浸水はありませんが、津波浸水想定区域の他学区から避難者が来る可能性があります。

（３）各地域の避難経路図（町内会ごとに作成）

※２０２６年度作成されたものを資料として添付していますので参考にしてください。必要に応じて見直しを行ってください。

１０　避難行動の考え（具体的に気を付けること）

【事　前】

・最小限の非常時持ち出し品（食料品・医療品・貴重品等）を用意しておきましょう。
・家族が離れているときの安全確認の方法を決めておきましょう。

【避難時】

「身の安全を確保するためにとるすべての行動」が避難行動です。

・落ち着いて速やかに避難行動をとりましょう。
・原則徒歩で避難しましょう。
・避難する時は、二人以上での行動を心がけ、近隣の人に避難を促す「声かけ」を行いながら一緒に避難しましょう。
・夜間の避難は危険なため、できるだけ明るいうちに避難しましょう。

※ 避難の際は、避難の必要性を判断します。避難所に行くことが避難ではなく、難を避けることが避難です。

≪風水害≫

・長靴は水が入ると動けなくなるため、運動靴等（靴底の厚いもの）にしましょう。
・浸水している場合は、道と水路の区別がつかない場合もあるので側溝等に転落しないよう気を付けましょう。
・飛来物に注意しましょう。

≪地震・津波≫

・すぐに海岸から離れ、緊急避難場所へ向かって避難しましょう。
・津波は長時間繰り返すため、一度避難したら自分の判断では戻らないようにしましょう。

11　避難行動要支援者（災害時要援護者）等への支援



災害時に大きな被害を受けやすいのは，高齢者や障害者，子どもなど，人の助けを必要とする人（避難行動要支援者（災害時要援護者））です。

こうした避難行動要支援者（災害時要援護者）を災害から守るため，みんなで協力しながら支援を行っていきます。

ア）避難行動要支援者（災害時要援護者）の身になって，防災環境の点検・改善を行う。

目や耳の不自由な人にも，警報や避難情報がきちんと伝えられるか，避難経路等に障害物や危険な場所はないかなどを点検し，改善に努めます。

イ）避難するときは，しっかり誘導する。

隣近所の助け合いが重要です。一人の避難行動要支援者（災害時要援護者）に複数の避難支援者を決めておきます。

ウ）困ったときこそ温かい気持ちで接する。

非常時こそ，不安な状況に置かれている人にやさしく接する必要があります。困っている人や避難行動要支援者（災害時要援護者）には，思いやりの心を持って接します。

エ）日頃から積極的にコミュニケーションを図る。

いざというときに円滑に支援ができるよう，日頃から積極的に避難行動要支援者（災害時要援護者）とのコミュニケーションを図ります。



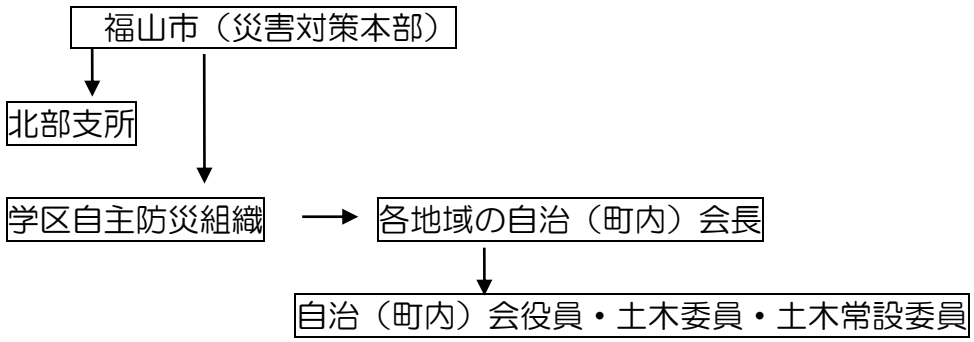
１２　有磨学区の防災対策（情報伝達）

（１）防災体制

自治会（町内会）名	地域の状況	
有磨学区	世帯数：1,103 世帯　　人　口：2,313 人	
自主防災組織の体制	自治会連合会	備考
	民生児童委員協議会 代表	
	体育会 会長	
	学区女性協議会 会長	
	老人クラブ連合会 会長	
	有磨小学校 PTA 会長	
	公衆衛生推進委員会表	
	芦田中央分団 団長・芦田西分団 団長	
	防災士（地域防災リーダー）	

（２）情報伝達の流れ

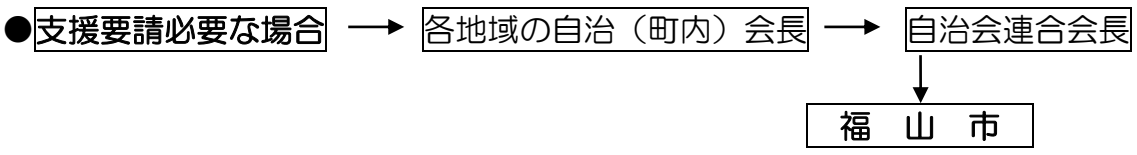
●行政→地域



●地域→行政

自治（町内）会長役員 → 各隣保班長 → 自治（町内）会員に周知

◎地域の緊急連絡網の作成をしておきましょう。



（３）活動体制（班編成）

自主防災会組織	平常時の役割	災害時の役割
本部会長	全体調整 関係機関との事前調整	全体調整 関係機関との調整 被害・避難状況の全体把握
組織役員	啓発・広報	公共機関等からの情報収集・伝達
	器具の整備・点検	消火器・バケツリレーなどによる初期消火
	資機材・器具の整備・点検	負傷者の救出・応急手当・救護所への搬送
	避難経路の点検	住民の避難誘導
	器具の整備・点検	炊き出し等の給食・給水活動
	避難行動要支援者（災害時要援護者）の支援体制の整備	避難行動要支援者（災害時要援護者）への支援





（４）避難場所・緊急時の連絡先（医療機関）情報

避難場所等	施設名	電話番号	備考
①避難場所 （地域指定）	○○集会所（クラブ） ○○公民館 ほか		
②避難場所 （市指定）	有磨小学校	TEL　958－2005	
	有磨交流館	TEL　958－3849	
	芦田中学校	TEL　958－2031	
	芦田ふれあいプラザ	TEL　958－3144	
③避難経路	「有磨学区防災・避難マップ」のとおり		
④避難所	有磨小学校	TEL　958－2005	
	有磨交流館	TEL　958－3849	
	芦田中学校	TEL　958－2031	
	芦田ふれあいプラザ 〃　交流館	TEL　958－3144	
緊急時の連絡先（医療機関）			電話番号
公共機関など	防災行政無線テレホンサービス		TEL　973－9740
	市役所		TEL　928-2111 夜間 921-2130
	危機防災管理課		TEL　928-1228
	北部建設産業課		TEL　976-8807
	芦品消防署		TEL　0847-52-4400
	消防団芦田中央分団・芦田西分団（事務局）		TEL　928-1193 夜間 928-1194
	福山北警察署		TEL　962-0110
	福山市上下水道局		TEL　928-1500
救急指定医療機関	福山市民病院　（蔵王町 5-23-1）		TEL　941-5151
	中国中央病院　（御幸町上岩成 148-13）		TEL　970-2121
その他医療機関	石川医院　（芦田町下有地 986）		TEL　958-3931
	松井内科　（駅家町向永谷 666-3）		TEL　976-0500

（５）防災資器材等

ア）有磨学区防災倉庫内備品一覧

２０２６．３月現在

No	品　　名	個数	No	品　　名	個数
１	非常用発電機 規格：MGC901GB （カセットガスタイプ）	１	２１	平バール	５
２	カセットガス	５０	２２	アルミ簡易ブランケット	１００
３	土のう袋	１００	２３	トイレ袋＆凝固剤	５０
４	スコップ	５	２４	避難用トイレ	１
５	ジョレン	２	２５	レスキューテント （仮設トイレ用）	１
６	ビニールシート （５．４×７．２m）	５	２６	ごみ袋４５L	１００
７	一輪車	２	２７	ごみ袋７０L	１００
８	バリケード	５	２８	マスク（レギュラーサイズ）	１５０
９	カラーコーン＋重り	各１０	２９	マスク（スモール）	５０
１０	ロープ （１００m太さ＃１２）	２	３０	簡易トイレ（段ボール製）	８０
１１	クーラーボックス	１			
１２	LED ライト	７			
１３	防雨型コードリール	３			
１４	ハンドメガホン （単２電池）※交流館保管	２			
１５	リヤカー	１			
１６	担架	２			
１７	パーソナルテント （ベンリーテント）	１			
１８	大ハンマー	２			
１９	折りたたみのこぎり	３			
２０	ボルトクリッパ （番線切り）	３			

イ）自治（町内）会で確保できればと思われる防災資器材の確認をしてみましょう。

物資名	確認（備考）
リヤカー	○
投光器	○
発電機	○
井戸水（飲み水として使用可能）	○

（６）自主防災訓練の実施

災害発生時，地域住民が「有磨学区防災・避難計画」に沿って適切な行動ができるよう，市や消防局等とも連携しながら，次の訓練を中心とした自主防災訓練を毎年度実施します。

ア）避難訓練（避難行動要支援者（災害時要援護者）の支援を含む）
イ）情報収集・伝達訓練
ウ）応急訓練
エ）給食・給水訓練
オ）啓発活動



訓練の実施後は，訓練結果を検証し，次回訓練に反映するなど，定期的に活動内容を見直し，必要があれば「有磨学区防災・避難計画」の見直しを行います。

（７）避難行動要支援者（災害時要援護者）への支援体制の整備

活動体制の自主防災組織を中心に，避難行動要支援者（災害時要援護者）の支援体制を整備します。



学区 自主防災会	担当	内容	時期（目標）
組織役員 （民生委員含む）	各自治（町内）会長 （隣保班長含む）	支援体制・方法の検討・整理	役員任期まで
		対象者の把握（市から提供）	〃
		個別計画の作成完了	〃
		定期的な個別計画の見直し	〃

（資料編）防災に役立つ情報

【資料1】チェックリスト
1　地域の危険な場所チェックリスト
2　自主防災活動（共助）チェックリスト
3　わが家の防災力（自助）チェックリスト

【資料2】家庭での防災・減災対策
1　避難経路の確認
2　家族や友人との連絡方法の確認
3　非常時持ち出し品の準備
4　家の中や周りの点検・補強
5　情報の収集
6　わが家の防災メモ

【資料３】いざというときのアイデア
・水をろ過する方法、火の起こしかた、あかりの作り方
・アイデア調理
・ビニール袋を利用したカッパ（簡易防寒着）の作り方
・ビニール袋と新聞紙で作る 簡易トイレ【避難生活】
・レジ袋とタオルで作る簡易おむつ 【避難生活】
・簡易ランタン

【資料１】チェックリスト

１　地域の危険な場所チェックリスト

次の項目にチェックしながら、「地域の危険な箇所」や「地域で起こりそうな災害」を確認しましょう。また、その結果をもとに地区避難計画を作成して、地域で情報を共有しましょう。（地域によっては関係のない項目がありますが、防災対策の参考としてください。）

項目	チェック欄
がけ崩れの危険性がある場所はないか	
がけ崩れなどが起こった場合に土砂が広がると考えられるのはどの範囲か	
海岸や河川等がどこにあるか	
防潮堤や河川堤防、水門の場所はどこか、状況は（老朽化・脆弱性等）	
海抜が著しく低い場所はあるか	
津波で浸水が想定されているのはどの範囲か	（想定区域外）
河川の河床より低い場所（天井川）はあるか	
決壊しそうな（したことがある）河川はあるか	
洪水で浸水が考えられるのはどの範囲か	
ため池の護岸の場所はどこか、状況はどうか（老朽化・脆弱性等）	
埋立地や湿地、沼地はないか	
土地が陥没しそうなところはないか	
大雨が降った場合に、浸水しそうな（浸水したことがある）場所はどこか	
地震で倒壊の可能性のあるブロック塀や電柱、街灯、大木などはないか	
地震で落下しそうな看板などはないか	
高層建築物などのガラスが割れて、飛散しそうな場所はないか	
地震で高架道路等から通行車両が転落しそうな場所はないか	
マンホールや貯水槽のフタは大丈夫か（人が落下しそうな場所はないか）	
過去に災害が発生した場所があるか	
危険物や化学薬品等を扱っている事業所はないか	

２　自主防災活動（共助）チェックリスト

災害に備えて、次の項目を一つずつ点検してみましょう

項目		チェック欄
基本活動	災害発生時に自主防災組織が機能する体制ができているか	
	住民が積極的に防災活動に参加しているか	
	地域住民に正確で分かりやすい防災情報の提供ができているか	
	女性や高齢者、障害のある人の意見が地域防災活動に反映できているか	
	定期的に防災訓練を実施しているか	
	防災訓練の際に消防局など専門的な人の意見も参考にしているか	
	過去の訓練を検証し、適宜、見直しや新たな訓練の導入を心がけているか	
自主防本部	災害時に自主防本部を、いつ誰がどこに設置するか決められているか	
	自主防本部や各班の行動マニュアル（行動の取り決め）はできているか	
	自主防本部での情報通信体制は確保されているか	
	災害時に地域の情報を収集（本部へ報告）する方法は決められているか	
	各種防災関係書類（組織台帳、防災資器材台帳、避難行動要支援者台帳）は作成されているか	
避難体制	過去の災害実績や土地利用などを踏まえた防災マップが作られているか	
	地域住民の具体的な避難計画（緊急避難場所・避難経路等）はできているか	
	地域で避難する際のリーダーや声かけのルールが決められているか	
防災倉庫・資器材等	自主防本部で必要な防災用品が準備・保管されているか	
	常時使用できる管理体制になっているか（複数人で鍵を管理するなど）	
	定期的な点検がされているか	
	食料・飲料水は、適宜更新されているか	
初期消火	地域住民（役員等）は、地域の消防水利を把握しているか	
	地域住民（役員等）は、消火栓の使用方法を理解しているか	
	バケツリレーなど、地域の消火方法が周知されているか	
救出救護	建物倒壊時の負傷者救出のための道具は用意されているか	
	負傷者を救護所まで搬送する方法は決められているか	

３　わが家の防災力（自助）チェックリスト

災害に備えて、次の項目を一つずつ点検してみましょう

項目		チェック欄
全般	防災について、家族で話し合いをしているか	
	緊急避難場所までの避難経路を決めているか	
	家族が離れ離れになったときの連絡方法を決めているか	
	非常時持ち出し品を準備しているか	
	地域で発生しそうな災害を把握しているか。	
	家の中の避難通路を確保しているか（物を置いていないか）	
	避難に関する情報の入手方法を把握しているか	
	隣近所とコミュニケーションをとっているか	
	自主防災組織の活動に参加しているか	
地震	自宅の耐震化診断や耐震化の対応はできているか	
	家具の転倒防止策を行っているか	
	寝室や子ども部屋に転倒しやすい家具等を置いていないか	
	緊急地震速報がでた場合の対応を理解しているか	
	地震が発生した場合の行動を理解しているか	
	地震ハザードマップ・津波ハザードマップを理解しているか	
風水害	側溝や排水溝を掃除しているか	
	雨どいに落ち葉や土が詰まっていないか	
	がけの近くを寝室にしていないか	
	気象情報を日頃から注意しているか	
	土砂災害の前兆現象を知っているか	
	水害ハザードマップを理解しているか	
火災	住宅用火災警報器を設置しているか	
	防炎品や耐震機能付きの家電を使っているか	
	ブレーカーの場所や操作方法を知っているか	
	消火器を設置し、使い方を知っているか	
	１１９番通報の要領がわかっているか	
	電気コンセントを定期的に掃除しているか	

【資料２】家庭での防災・減災対策

地域で災害に強いまちづくりを進めるためには、まずは家庭で日頃からの準備をきちんと行っておく必要があります。

１　避難経路の確認

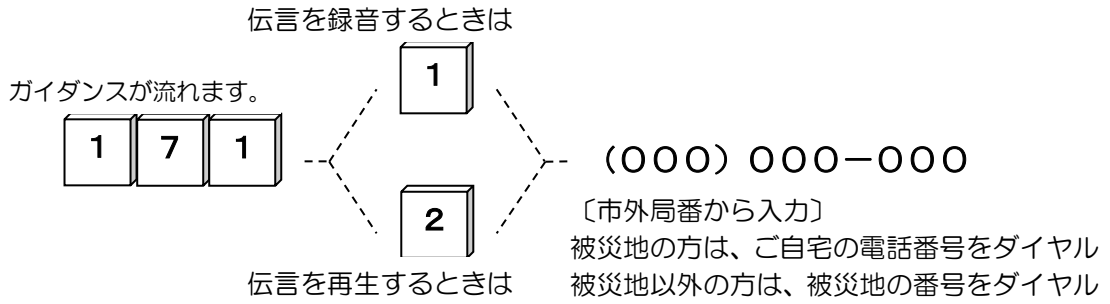
自宅や勤務先などから安全に避難できる緊急避難場所や避難経路などを確認しておきます。地域で発生しそうな災害は何か、災害によりどんな被害を受けるのかなどを想像しながら、状況に応じて安全に避難できるよう複数の避難経路を確認します。

２　家族や友人との連絡方法の確認

災害が発生したとき、家族や友人の安否が確認きるよう、家庭で連絡方法を話し合って決めておきます。

（１）災害伝言ダイヤル「１７１」を利用する。

〔災害伝言ダイヤルの利用方法〕



（２）携帯電話の「災害用伝言板」を利用する。

震度６以上の地震など大きな災害が発生したとき、携帯電話上に「災害用伝言板」が設けられます。

伝言の録音	伝言の確認
①トップ画面の「災害用伝言板」を選択	①トップ画面の「災害用伝言板」を選択
②「災害用伝言板」の画面から「登録」を選択	②「災害用伝言板」の画面から「確認」を選択
③伝えたい項目を選択（書き込みもできる）	③相手の携帯電話番号を入れる。
④その画面で「登録」を選択	④その画面で「検索」を選択
⑤伝言の登録完了	⑤伝言の検索結果が表示される。

３　非常時持ち出し品の準備

家族構成に合わせて、非常時持ち出し品を必要な量だけ用意し、すぐに持ち出せる場所に保管しておきます。

非常時持ち出し品チェックリスト

分　類	項　目
食料品 ※3 日分が目安 （できれば 1 週間分）	□飲料水　□乾パン　□缶詰　□レトルト食品 □栄養補助食品　□アメ・チョコレート　□離乳食 □粉ミルク　□（　　）　□（　　）
生活用品	□毛布　□タオル　□ラップ　□ティッシュ □ビニール袋　□マッチ・ろうそく　□充電器 □予備電池（モバイルバッテリー）　□生理用品 □簡易トイレ・紙おむつ（3 日分が目安） □（　　）　□（　　）□（　　）
医療・衛生用品	□常備薬　□包帯　□ガーゼ　□ばんそうこう □お薬手帳　□処方薬　□（　　）　□（　　）
感染症対策用品	□マスク　□体温計　□ウェットティッシュ □アルコール手指消毒薬　□（　　）
貴重品	□現金（小銭も忘れずに）□通帳　□マイナンバーカード □（印鑑）　□身分証　□（　　）　□（　　）
衣料品	□下着　□靴下　□軍手　□長袖上着　□長ズボン □防寒具　□雨ガッパ・雨具　□（　　） □（　　）　□（　　）
避難用具	□懐中電灯　□携帯ラジオ　□ヘルメット　□防災頭巾 □（　　）　□（　　）
ペット用品	□ケージ　□リード　□ペットシーツ　□エサ・水 □（　　）　□（　　）

※リストはあくまでも参考です。（）内には必要なものを追加記入するなど、各家庭で必要なものを準備しましょう。

４　家の中や周りの点検・補強

（１）家の中の点検

・タンス、食器棚、冷蔵庫、テレビなどの家具の配置場所を見直す。または、転倒防止器具などで固定する。

・食器棚に扉開放防止の器具を取り付ける。

・ガラスに飛散防止フィルムを張る。

（２）家の周囲の点検

・アンテナの補強

・プロパンガスやクーラー室外機等の固定

・非常用通路の確保（玄関周りなど避難経路に物を置かない。）

（３）自宅の耐震化チェック

・耐震化診断を受ける。

・耐震化補強を行う。

（木造住宅の耐震診断・改修の補助については、福山市建築指導課へ相談）

５　情報の収集

・気象庁から発表される情報などに注意する。

・福山市から避難勧告や避難指示等が発令された場合、速やかに指示に従って適切に行動する。

・自らもテレビ、ラジオなどを利用して情報収集を行い、避難が必要と判断した場合は、自主的に避難する。

避難勧告や避難指示等の発令や伝達は、次の方法で行われます。

○ 福山市防災行政無線（サイレン、音声伝達）
○ 福山市広報車や消防車両などによる広報
○ ふくやま防災メールによる緊急メール配信
○ 携帯電話事業者による緊急速報メール
○ エフエムふくやまのラジオ放送

〔情報の入手先〕

○広島県防災Ｗｅｂ

（ホームページ）

https://www.bousai.pref.hiroshima.lg.jp/

○気象庁　キキクル

（あなたの街の防災情報）

https://www.jma.go.jp/jma/index.html

○国交省　川の防災情報

（ホームページ）

https://www.river.go.jp/index

○福山市　防災情報リンク一覧

（ホームページ）

https://www.city.fukuyama.hiroshima.jp

（参考）ふくやま防災メールの登録方法

① 次の登録用アドレスへアクセス

bousai.fukuyama-city@raiden2.speecan.jp

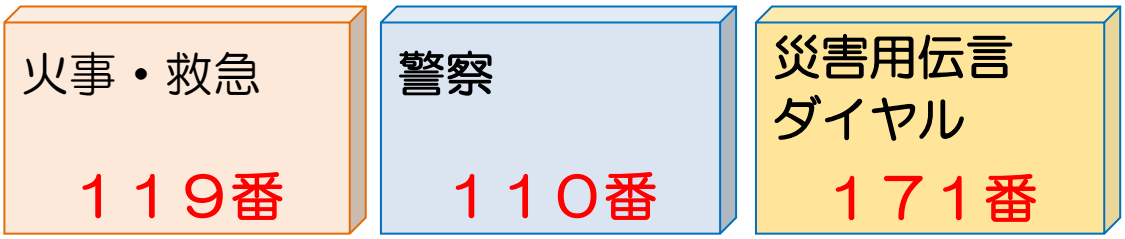
または、右のＱＲコードを読み取って、空メールを送信する。

② 返信された「メールサービス本登録のご案内メール」から登録画面へアクセスし、利用規約を確認のうえ、「同意する」を押す。（携帯電話に迷惑メールの設定をしている場合などは、設定変更が必要な場合があります。）

③ 配信を希望する地域を選択し登録する。

④ 「本登録完了のお知らせメール」が届いたら登録完了です。

６　わが家の防災メモ



ア　緊急連絡先

連絡先	電話	連絡先	電話
福山市		上下水道局	
消防署		病院	
警察署			
ガス会社			

イ　家族の連絡先

連絡先	電話	連絡先	電話

ウ　親戚・知人の連絡先

連絡先	電話	連絡先	電話

エ　その他の連絡先

連絡先	電話	連絡先	電話

※P.４「【資料１】「３ わが家の防災力（共助）チェックリスト」を利用して，わが家の防災力を点検しましょう。

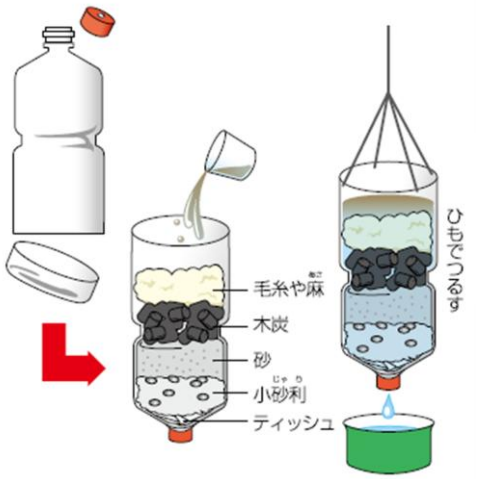
【資料３】いざというときのアイデア

災害時には，停電や断水が起こるなど，ふだん当たり前のように使っているライフラインが機能しなくなる場合があります。こういった場合に次のような方法があります。

■ 水をろ過する方法

ペットボトル

ふたの真ん中に小さな穴をあけ、底の部分は切り取る。さかさにして砂や木炭などのろ過材を入れてひもでつるし、下に水受けを置けばできあがり。



布

一方のはしを水にひたし、別のはしを水受けに入れ、水より少し低い位置に置くと、きれいな水がたまります。



■ 火のおこし方

1 火をつける材料を用意する

乾燥した草、木の削りかす、鳥の羽、杉の木の内皮、布の毛羽、ロープをほどいたものなど。



2 虫メガネのレンズやビンの底などで火をおこす



■あかりの作り方

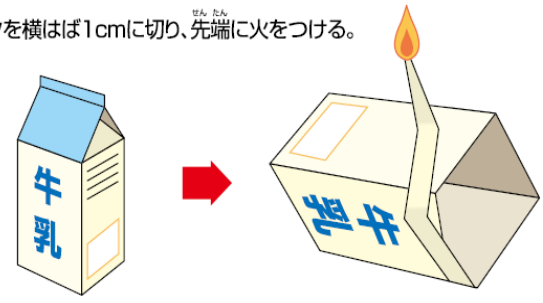
食用油

食用油を小皿か缶詰の空き缶に注ぎ、布か紙をよったしんをひたす。



牛乳パック

牛乳パックを横はば1cmに切り、先端に火をつける。



■アイデア調理

～　いざという時直ぐに役立ち、覚えておくと便利です～

〔アイデア 1〕　炊飯用袋を利用

災害時にも役立つ商品として，米研ぎ不要，火加減・水加減も不要でお米が炊ける炊飯用袋が，防災用品売場やホームセンターなどで販売されています。

（作り方）ポリエステル不織布で作られた炊飯袋の中に，付属の紙製計量カップで量ったお米を洗わないまま入れて，竹串でとめる。沸騰湯に投入し 20 分茹でた後に１０分ほど蒸らしてできあがり。炊飯用の袋は，受け渡し容器としても便利です。


⇒


〔アイデア 2〕　ポリ袋を利用した炊飯

スーパーでよく見かけるポリ袋は，液体漏れせず、熱湯に耐える程度の耐熱性があるので、調理道具としても使えます。

（作り方）① 料理用ポリ袋に米と水を入れ、袋の空気を出して口をしっかり縛る
材料（１人前）：米１/２カップ 水１/２カップ （250kcal）
② カセットコンロまたは、まき用釜で鍋にお湯を沸かす。
③ ①を沸騰したお湯に入れ、落しふたをしてお湯の中に沈め，25分～30分茹でる。


⇒


どちらの方法も，袋を食器代わりにしてご飯を食べることが出来るので，衛生的で，食器がいりません。

■ビニール袋を利用したカッパ（簡易防寒着）の作り方



①袋の底を手前にして縦方向に置き，縦方向に３箇所切ります。



②図のとおり横方向に切ります。



③図の細い部分の輪を切って開きます。



④右端の部分も，同じように切って開きます。



⑤そのまま縦方向に，右端を切り開く。これでゴミ袋カッパの完成です。



左側の大きな部分が頭のフード，真ん中の部分があごヒモ，右の部分が体の前をとめるヒモになっています。

あごヒモと，体部分のヒモを止めれば，上半身のみですが，簡易雨合羽の完成です。また，防寒着代わりとしても使えます。

※ ビニール袋カッパは何もない場合の簡易用ですので，普段からカッパや防寒着を非常持ち出し袋に入れておきましょう。

■ビニール袋と新聞紙で作る 簡易トイレ【避難生活】

被災時には，水道が止まってトイレが使えなくなる場合があります。そんな場合に，ビニール袋や新聞紙を利用して簡易トイレが作れます。



① 大きめのビニール袋と新聞紙を用意し，ビニール袋の縁を丸く外側に折り込みます



②その中に丸めてしわを作った新聞紙を入れます。 中の新聞紙をくしゃくしゃにすると袋の中になじみやすく 吸収もしやすくなります。



③新聞紙のサイドを立てればより排泄物が外に漏れにくくなります。



④用を済ませたあとは袋の中の空気を抜きながら口を縛り決められた場所に捨てます。



⑤トイレの便器がまだ衛生的な場合は、ビニール袋と新聞紙をかぶせて利用すると水が流れなくても良好な衛生状態を保つことができます。

用を済ませた後は中の空気を抜きながら口を縛り，決められた場所に捨てます。トイレの便器が使える場合は，便器に同じくビニール袋と新聞紙をかぶせて利用すると水が流れなくても衛生状態を保つことができます。

■レジ袋とタオルで作る簡易おむつ　【避難生活】



①レジ袋を用意し，持ち手と両脇を切ります。



②長い一枚のビニールにします。



③赤ちゃんの下にそっと優しく敷きます。ビニールの上には新しいタオルなどを当てます。



④オムツをするようにかぶせます。



⑤身長に合わせて折り返し、腰のあたりで持ち手を結びます。



※タオルは古着などでも代用できますが，清潔で常に新しいものと交換するようにしてください。

■簡易ランタン



①懐中電灯，半透明（乳白色）のビニール袋，輪ゴムを用意します。



②半透明（乳白色）のビニール袋に空気を入れて膨らませます。



③懐中電灯のライト部分をビニール袋に入れて覆い被せ，ライトの首の辺りでビニール袋がずれないように輪ゴムで留めてください。



④ぶら下げれば，電球代わりになります。



⑤懐中電灯は一方向を照らし，明るいですが，ビニール袋をかぶせることで光の力は弱まり，優しい光となりますが，光が拡散されて広い範囲を照らしてくれます。

※LED ライトは，電池が長く持ち，熱をあまり持たない特徴がありますが，念のため火災などに注意してください。

お わ り に

私たちの住む有磨学区は、雨に弱いとされるマサ土で構成される山地部分が広がり、その裾野の割合開けた土地に住宅・家屋が存在しており、土砂災害による危険にさらされています。また、地震の原因となる長者ケ原断層―芳井断層が近接しているほかに市原～山方の推定活断層もあることから地震に対して安心であるとは言えません。風水害や地震といった自然災害の発生を防ぐことはできませんが，被害を防ぐことはできます。たとえ完全に防ぐことはできなくても，軽減することは十分可能です。

防災力を高めるためには，日頃からの備えと，災害の特徴や性質など「災害を知る」「地域を知る」ことが大切です。

「この地域では，かつてどのような災害がおこったのか」

「今，この地域にはどのような災害の危険性があるのか」

「どうすれば，災害による被害を軽減することができるのか」

「もし，災害が発生したら，自分や家族，そして地域は，どのような行動をとればいいのか」などについて，家族や地域とのコミュニケーションが大切です。

また，防災には「情報」とともに，「自助」・「共助」・「公助」の連携と役割分担が重要です。

消防・警察などの「公助」　地域の自主防災組織などの「共助」　そして，何より自らの身は，自分で守るという「自助」が必要不可欠です。

当学区に住む者は，災害から未然に守る地域一体となった，「誰もが安全で安心して暮らせる，災害に強い地域づくり」をめざした取り組みを進めていきましょう。

作成 ２０２６年（令和８年）３月

参考：学区内ため池資料

大字名	ため池の名称	堤高(m)	貯水量(㎥)
柞磨	釜の口池	9.4	112,000
上有地	福岡池	9.4	18,800
	大谷池	14.5	91,000
下有地	日和池	4.1	10,700
	同道池	12.0	27,800
	(久田谷)新池	12.7	40,500
	山方新池	11.0	16,400
	殿の奥池	10.0	42,500

※ 詳細は福山市ホームページでご覧いただけます

（福山市ＨＰ→担当部署で探す→農林整備課→防災重点ため池ハザードマップ）